

1 実施方向

学校関係者評価委員会(学校評議員会)に、自己評価の結果を資料として示し、本校の自己評価が適切に行われているかどうか、また、教育活動全般における取組が適切かどうか等について評価を受けた。

2 実施日時

3月19日(火)

3 学校関係者評価の結果(所見および指導助言)

- (1) オープンスクール等を通して生徒の自主性を伸ばしていく機会を作っていくことも必要であるとする。
- (2) 現在の教育は急速に変化している。生徒の多様性や、多様なニーズに対応していくことが求められている。
- (3) 学習合宿をやめたことによる影響を検証することも必要。
- (4) 生徒が勉強するかどうかは、意欲の問題でもある。どうやって引き出すかも考えないといけない。
- (5) 受験については納得させて出願させることが必要。ただし学力との乖離や受験パターンを含め、様々な情報提供を行い、お互いに納得した出願にしてほしい。
- (6) 中学校では成績の層が広がってきている。高校でも授業に苦勞してはいないか。習熟度別授業等も検討してほしい。
- (7) 昔は鍛える指導であったが、今は「支える・寄り添う」生徒指導に転換していかなければならない。
- (8) 最近、飲酒・喫煙はなく、スマホでのトラブルが多いと聞くが状況はどうか。高校生のスマホ所持率は令和3年度で97%。また、スマホは調べごとにも便利で近くに公衆電話も無いため、スマホの学校への持ち込み禁止は実質無理ではないか。
- (9) スマホ関連で犯罪に巻き込まれるケースもある。犯罪に巻き込まれたケースで、フィルタリングをしていたケースは少ない。ファイルタリングは有効だが、完璧ではないことにも留意すべきである。
- (10) スマホの利用に関しては、家庭で合意したルールが必要。守れない場合は解約も考えさせるなど。スマホの契約者は親であるから、親の責任でもある。
- (11) 中学校でもスマホの扱いには苦慮している。メディア指導員による指導も（6月、秋、卒業前に）実施したい。
- (12) 南高の生徒は校外ではあまりスマホを使っている場面は見かけない。
- (13) 各高校の頭髪の規定が違っていると（ツープロックなど）指導が難しい。
- (14) 中学生は女子でスラックスを履いている生徒が一定数いる。高校でも早めの制服検討をお願いしたい。

- (15)どの学校にも不登校生徒はいるので、柔軟に対応していく必要がある。
- (16)南高の生徒はよくあいさつしてくれる。ただ、以前と比べると少しおとなしいようにも感じる。
- (17)以前、PTAでSCに来てもらったことがある。県の支援だけで不十分な場合は検討も必要。
- (18)中学生も発達障害（診断あり、疑いあり）が1～2割程度見られる。
- (19)自分を知り、社会を知ることが必要。SSHを上手く活用して進路指導を行えば、学校の先生以外の様々なキャリアの人の話を聞く機会が得られると考える。
- (20)自主性を育てるためには、体験・経験が必要である。そのためにも、生徒達を社会に出してみることも考えてみるとよい。
- (21)ラグビー部を応援している。最近の選手はスマートだが、ぜひ復活してほしい。
- (22)保護者対応等で先生方が疲弊してはいないか。
- (23)修学旅行の出席率が高いのは、それだけ魅力があるからだと考える

以上の指摘を受け、以下の確認・対応を行った。

- (1)～(6) 育成したい資質・能力を念頭に置き、行事や授業、SSH活動をリンクさせ、将来の進路選択に対する視野を広げさせる取組を行うことで、生徒の未来デザイン力を高め、本校の魅力化を図っていく。
- (7)～(12)スマートフォンの使い方に関しては、生徒だけでなく保護者にも理解してもらえよう、研修の場を設けたい。
- (13)校内外で問題事案が発生した場合、即座に対応に当たると共に、マナー等の事案に関しては全校生徒に問題提起し、改善すべき点について生徒自身に考えさせるようにしている。また、生徒指導便りについては、毎月本校のホームページにも掲載している。また、校則の改定については、生徒たちと話し合いながら進めており、今後もその方向で進めていく。
- (14)令和6年度入学生から新制服となり、女子もスラックスを導入する。今後着こなしルールについても検討していく。
- (15)～(18)年々、配慮が必要な生徒が増加しているが、SCやSSW、児童相談所等の外部機関とも連携を図りながら対応していきたい。
- (19)(20)SSHについては、今後とも地域や大学、中高の連携も含め、南高の魅力化につながるように、計画・実施していきたい。
- (21)～(23)地域との連携、スクールバスの問題、働き方改革の取組や南高の魅力づくりとしてのカリキュラム編成、成年年齢引き下げに伴う対応等、本校にとって喫緊の課題であり、検討を進めていきたい。